



七九二

工一儿

作画

雨野小夜美

もう一歩も歩けない、から始めよう



あたしの足は
血だらけだ

どうせろくでもないけど信じていたんだ



大ファンという夢を見ていた
あの頃を思い出すと宝石のようだ
おこづかいで初めて買ったCD
初めて好きになった洋楽の
何もかもが初めてで
シールをおそろおそろはがした

友達はそっと離れて行った

たぶんアメリカより遠くのどこか知らない国

歌はたぶん英語だと思った

訳が入ってるから大丈夫って

洋楽好きな友達にきいた

CDをひっくり返して

探しても

訳なんか入っていなかった

文字は小さい方がクールなのだろうか

歌詞カードには何が書いてあるんだろう？

細かすぎる字

英語の苦手なあたしには

まったくわからない

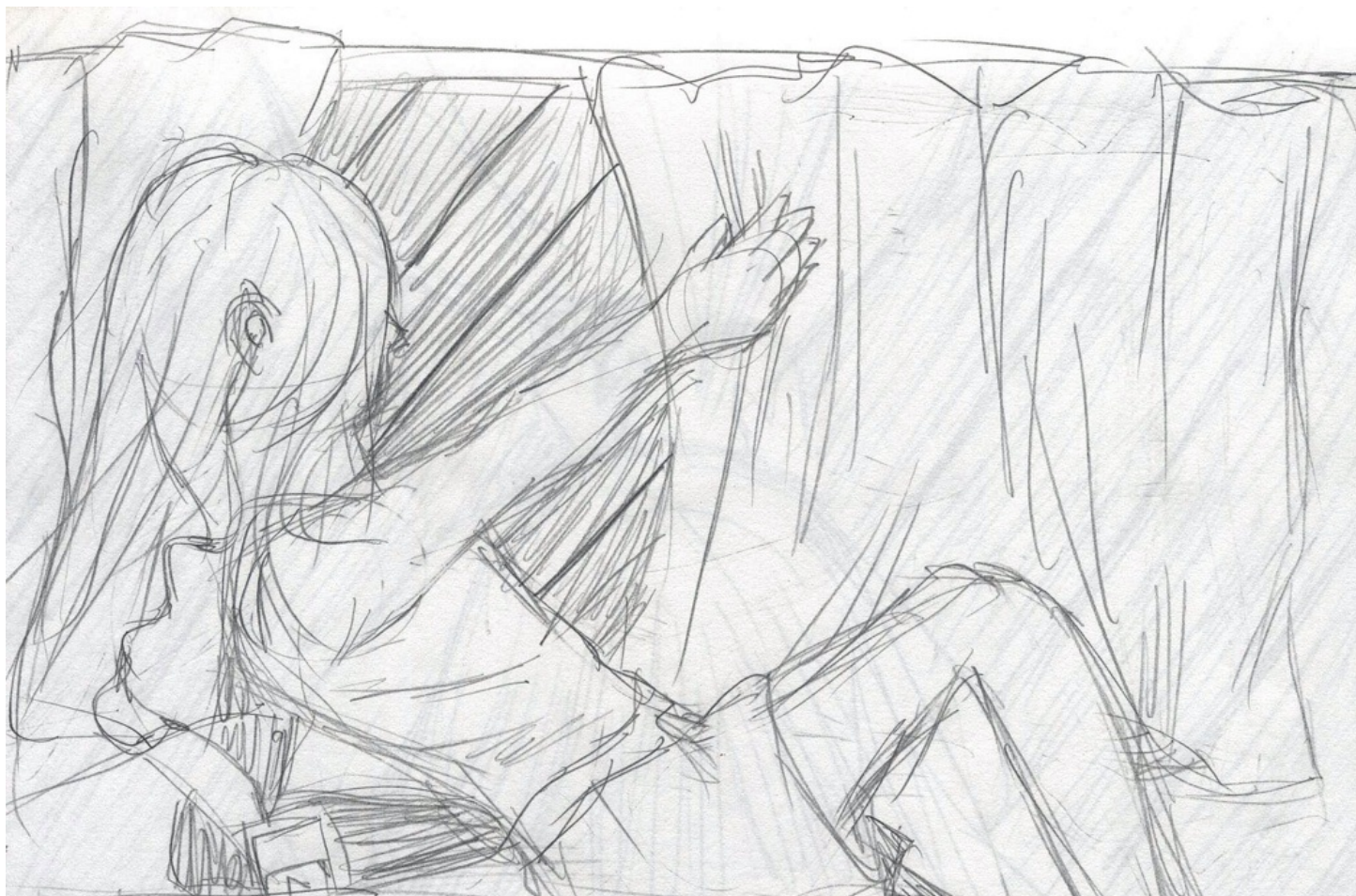
とりあえず曲だけきいてみた

とても細い声の彼は

何かを伝えたがってる

何かはわからない

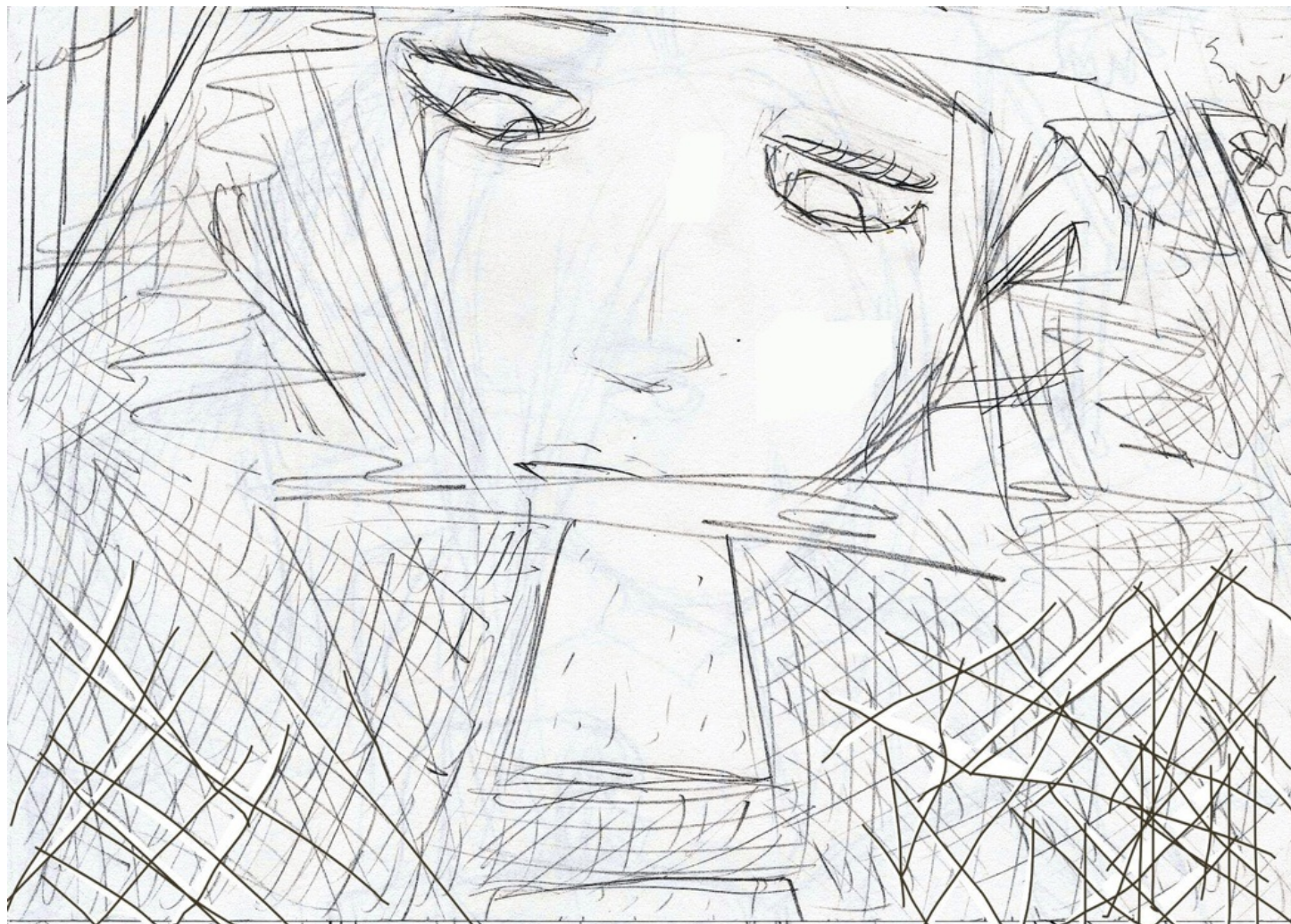
あたしは寝るのが遅いんだよ



今日があったのは
つまり何のためだ？
明日が始まるよ
あと 3分で

イヤホンの外で
現実が泣いた

自分の泣き顔は気持ち悪いと思った



アスファルトの上の
逃げ水みたいな少女だった
自分は最低だ
自分は最低だ

かけて欲しかった言葉の
訳さえ調べても出てこない
自分は最低だ
自分は最低だ

文法ならわかるけど英語で喋るな

家に帰ったって

誰と話すわけでもなく

まして彼氏なんているかよそんなもの

CDをよく心をとぎすまして

もう一度再生

何言ってるかわからないや

歌詞カードも英語で読めないや

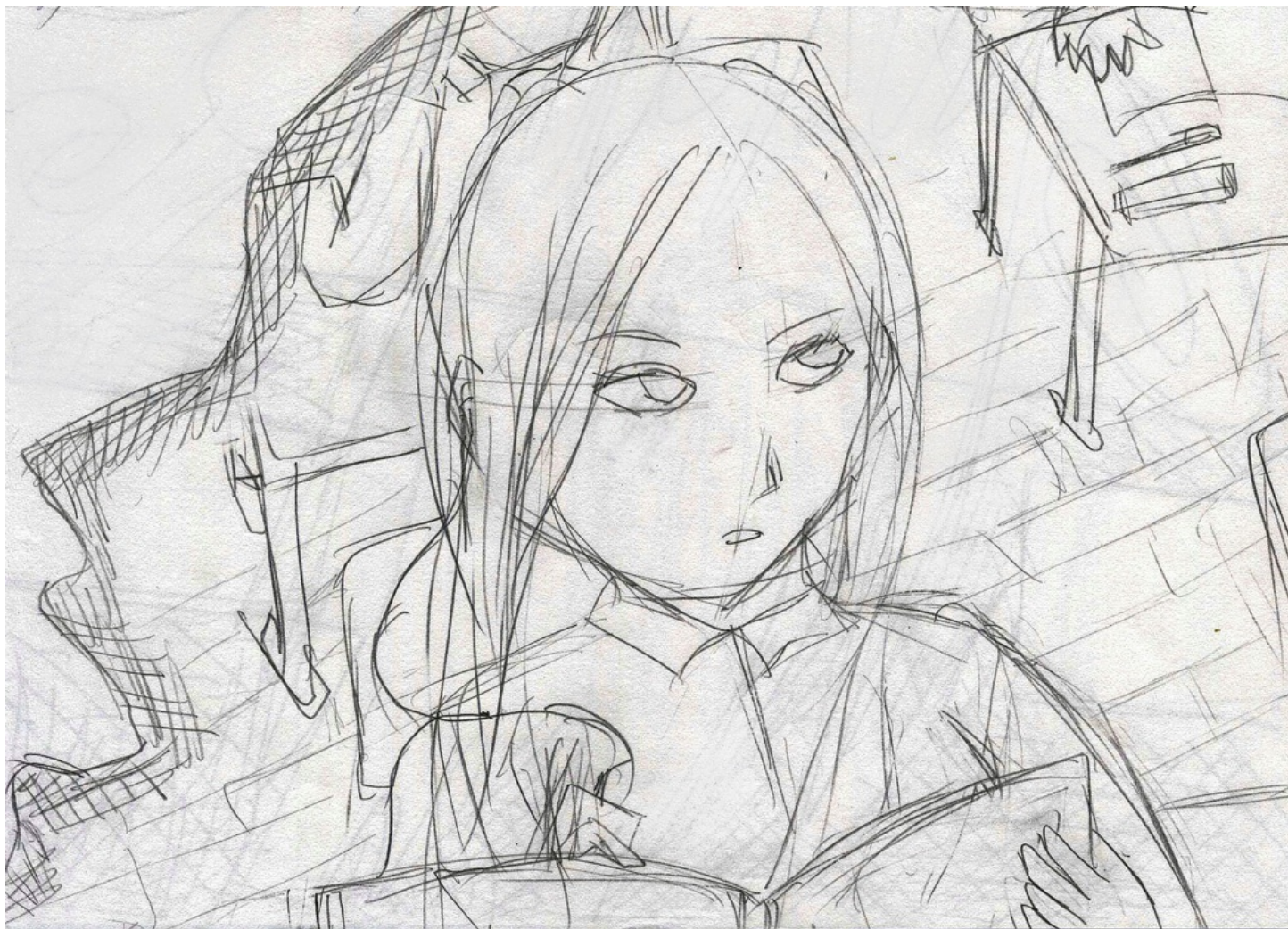
自分は最低だ

明日はすばらしき学級委員

自分は最低だ

自分は最低だ

賢そうな顔してるけど実は顔だけです



授業中

彼の歌声の切なさに気がついた

細い歌声だ

アメリカよりもっと遠くの国

すぐ近くにいるような

なんて事をしている

自分は最低だ

テストは100点とれました

自分は最低だ



彼の歌声が好きで
何言ってるかわかんないけどひかれて
顔を調べて
いつしか夢にまで見た
給食当番
パンに指のあとがついてしまって
謝れよ 自分
どこの誰に謝れと？

最低でただのバカだ
家族の反対を押し切って
あたしは英語を習うと決めた

こんな人格でも心が痛い事もあるよ



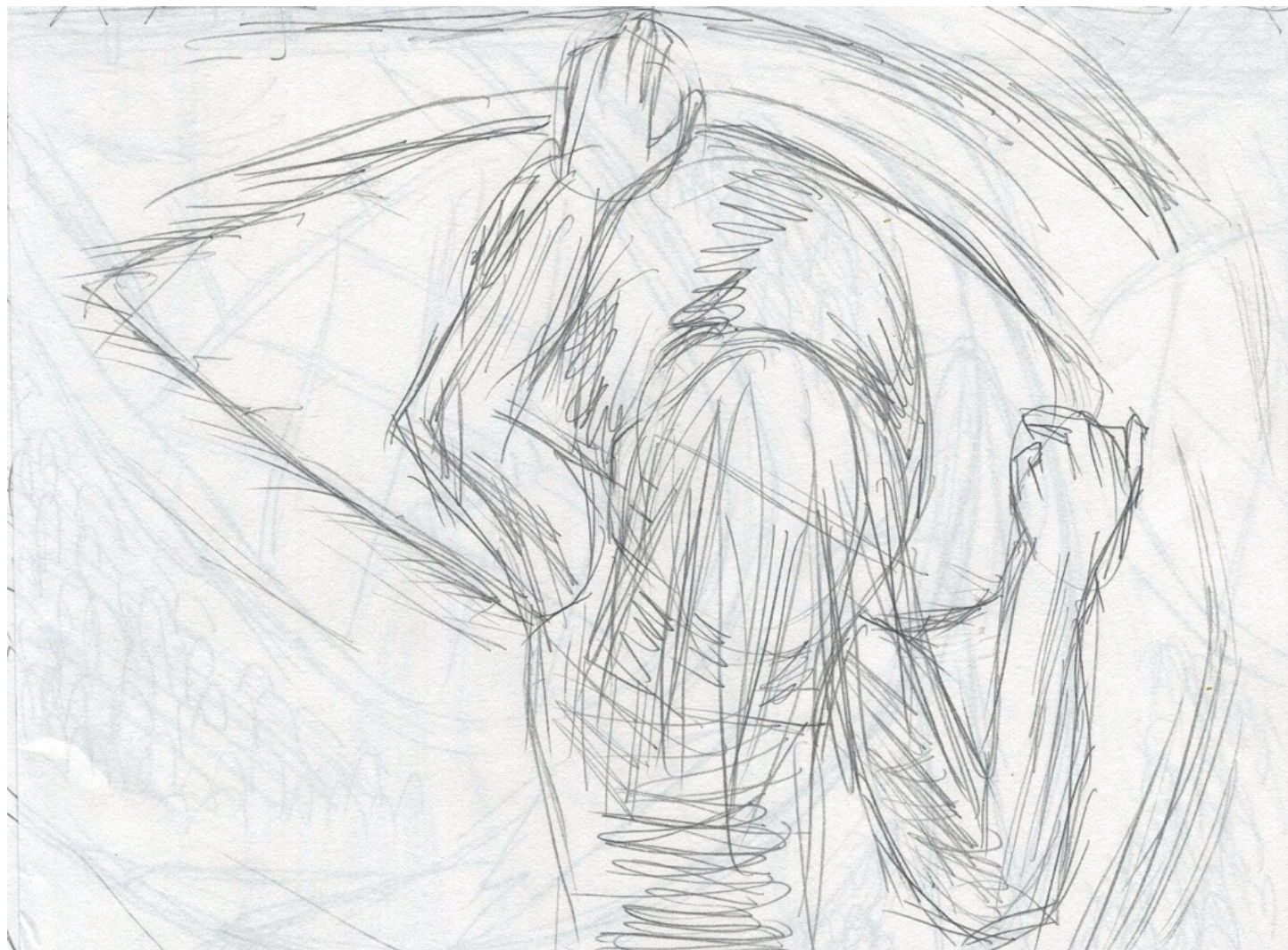
アスファルトの上の
逃げ水みたいな少女だった

アスファルトの上は猛暑
裸足で歩いた

ベイビーなのでたぶんラブソングかと

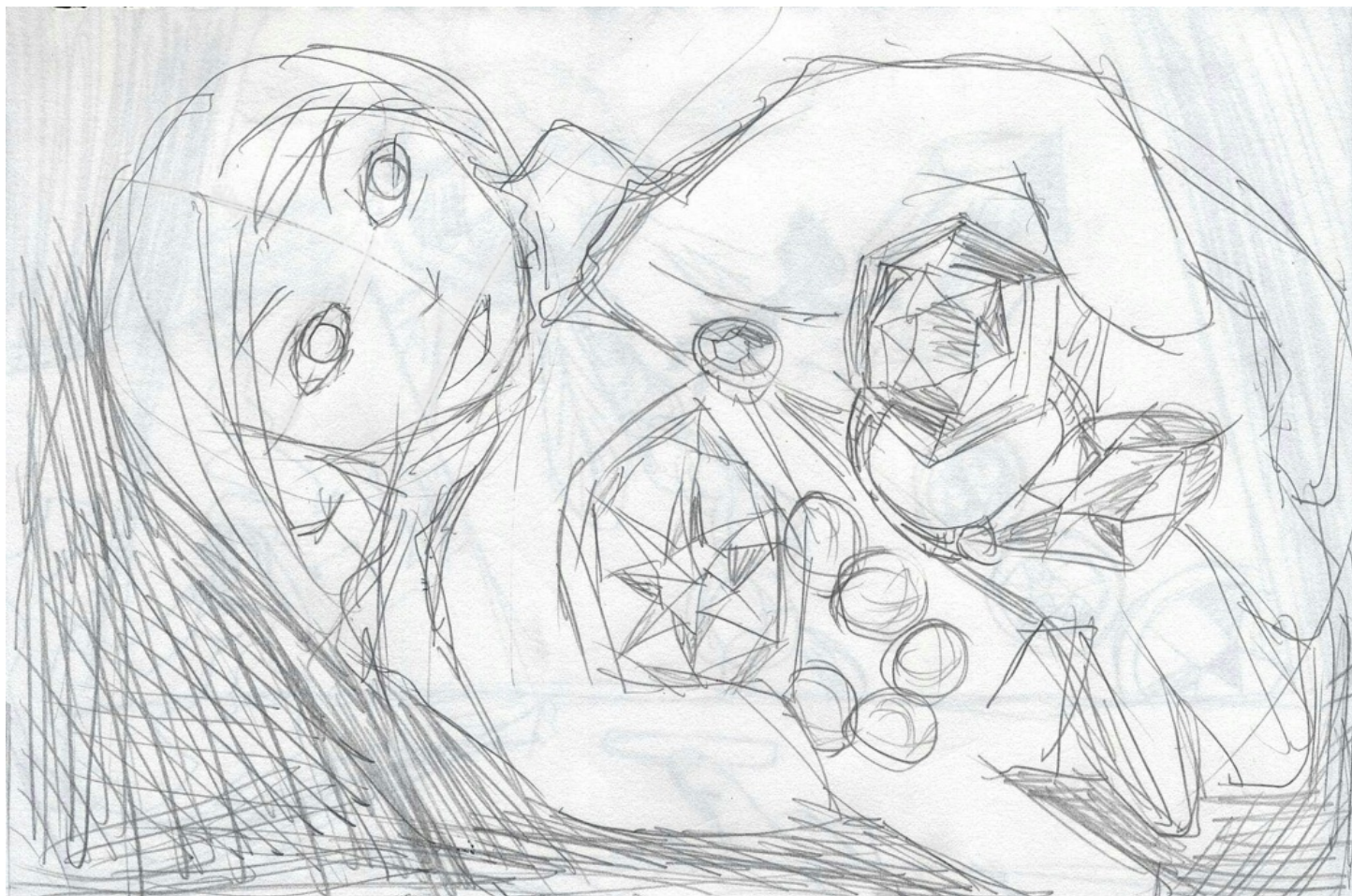
何言ってるかわからないや
どれだけ勉強したって
名前とベイビーしかききとれない

パソコン立ち上げて
彼のインタビューも見た
英語の字幕が速すぎて
何の話だったのかもわからずに
英会話のお金だけがかさんでいって
自分は最低だ
明日はママのよい子
自分は最低だ



でも彼の目を見ていた
緑だか青だかふしぎな色が
キラキラ動くのを
宝石のようだ

最低だ
戸が閉まる音にまで恨まれてる
自分は最低だ
彼の横顔を見ていた
それだけで救われていた



あの頃を思い出すと

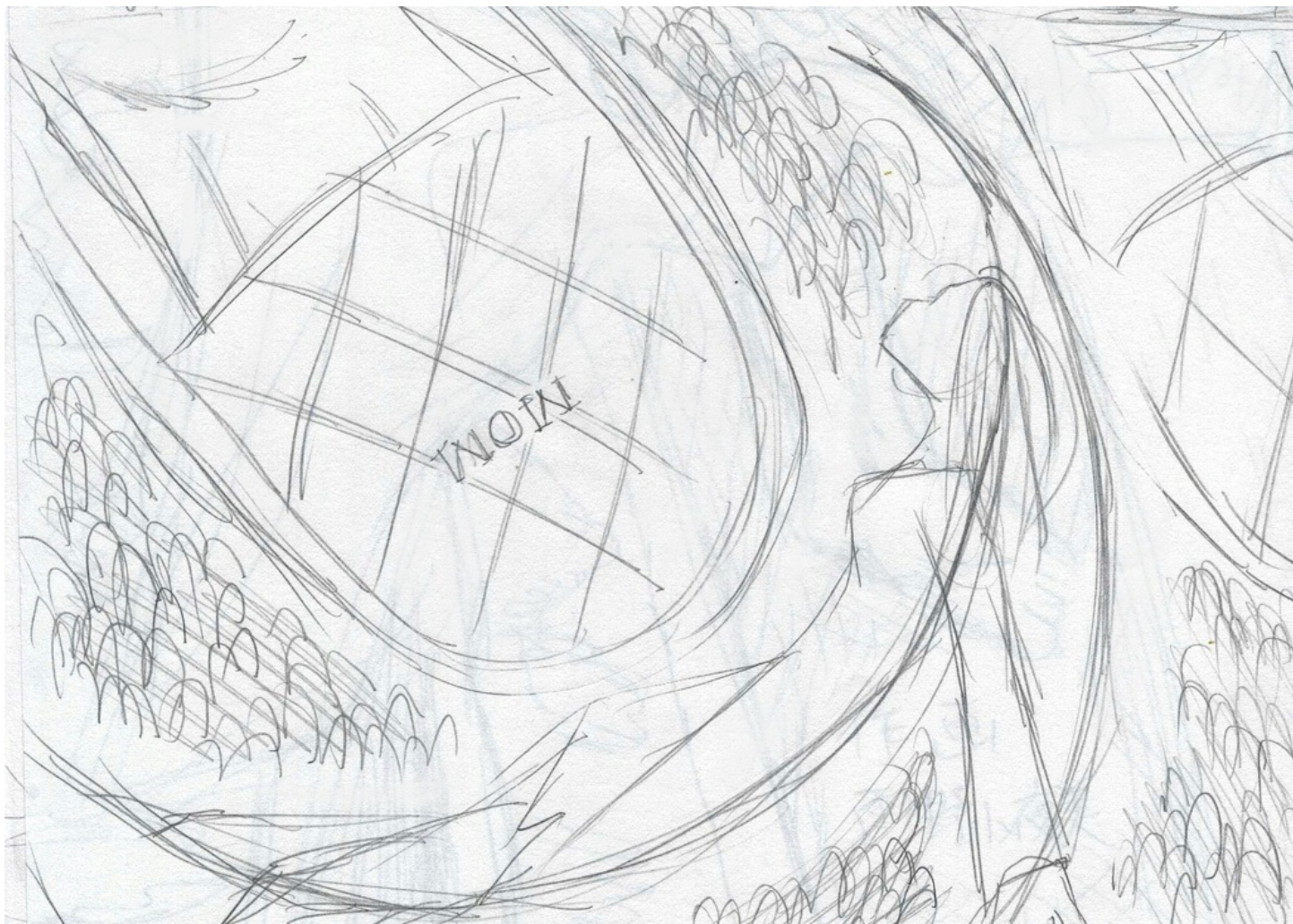
宝石のようだ

両手いっぱい拾い集めた

ルビー サファイア エメラルド トパーズ

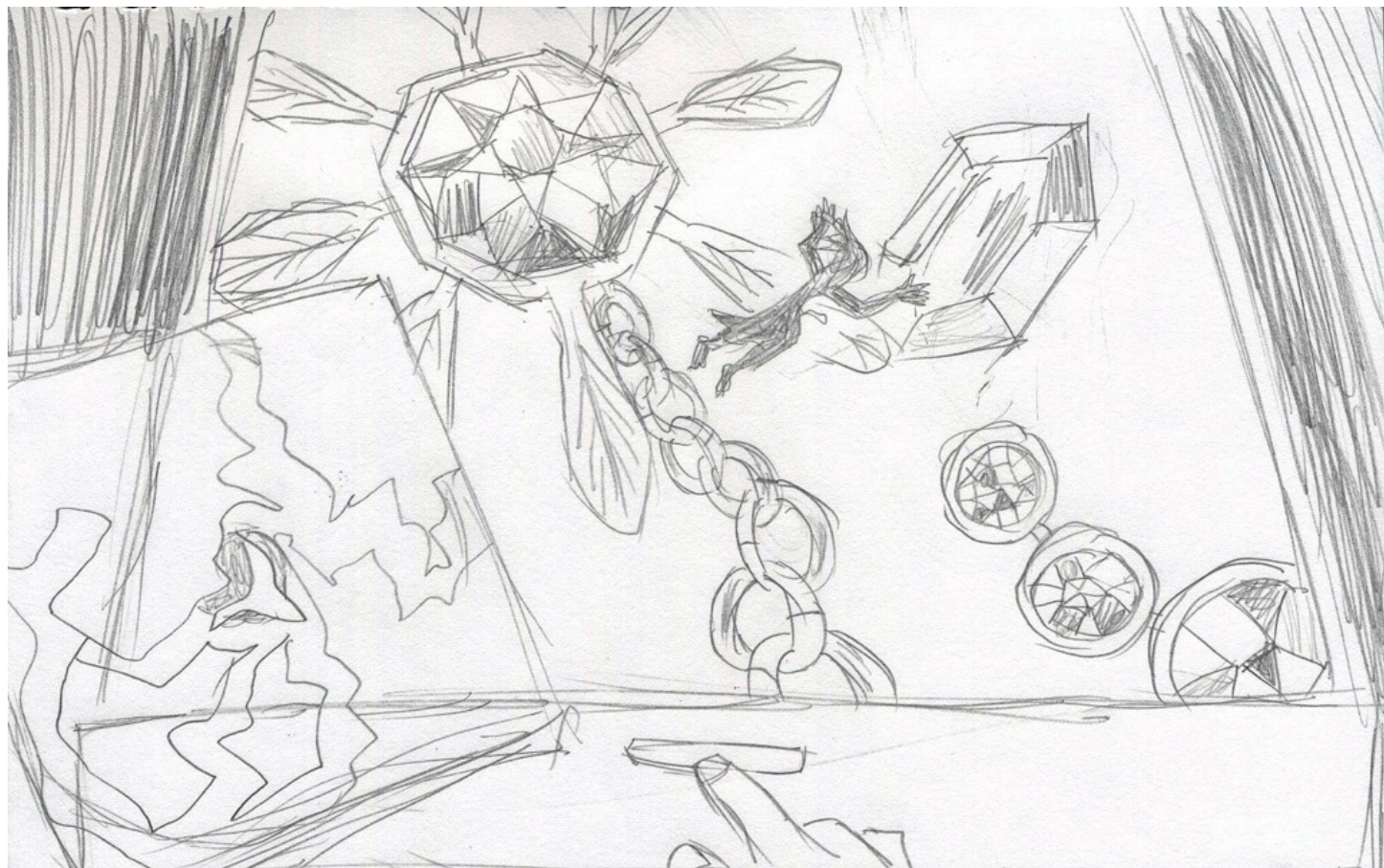
後悔 寂しさ 悲しみ 怒り

すべて宝石のようだ



寝るまで彼の細い声をきいていた
あと3分で来なくてもいい明日
家族が怖くていられなかったら
どこへ帰ったらいいんだろう

床に転がる上向いたピアス
誰を刺してもかまわないと
自分は最低だ
自分は最低だ
彼の声だけに救われていた



自分が最低っていうあふれる気持ち

それすら過ぎ去ってみると

宝石のようだ

ダイヤモンド オパール ペリドット 水晶

引き出しの中から取り出して

陽にかざした

割れたCDのかけらが

こぼれた

すべて

すべてが今は宝石のようだ

教訓なんか書きたくないからがんばれって言うよ



アスファルトの上の
逃げ水みたいな少女だった

アスファルトの上を裸足で
あなたは渡る。

エール

<http://p.booklog.jp/book/116667>

著者：雨野 小夜美

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tinycolor/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/116667>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト